

45号

題字 六ツ美南部小
5年 栗本明生

かいはつ



岡崎市現職教育委員会 特殊教育部会

平成13年12月10日発行



野外での活動を

奏梨小学校長

鈴木 忍

「子供の可能性を育てるために、引き出しの多い学校をつくる」

これは神奈川桐蔭学園高校の校長の鶴川昇先生がよく言われている言葉です。その言葉どおりに、有名大学への高い進学率、野球、ラグビー部等の全国大会出場など、文武両面での活躍がマスコミからよく流れてきます。卒業生も各界で活躍し、最近では芸能人の中にも人材が輩出されていると聞きます。

生徒のニーズに合わせた教育課程や行事を用意して、個性豊かな人材を育てるということは、小中学校でも、もちろん特殊学級でも最重要の課題といえます。

私たちは子供たちのために、学校にたくさん引き出しを用意していますが、最も多くの引き出しを用意しているのは、学校の外の野山です。自然ほど懐深く、多様な姿で子供たちに接してくれるものはありません。先ごろノーベル賞を受賞された名古屋大学の野依教授も「野山で遊んだ経験が、僕にとつての生き方の根源になっている」と新聞に書かれていました。

地域の自然へ深くかかわったという愛着心無くして、郷土愛も生まれません。そして、何よりも子供たちが自然性を喪失したことが、最近の異常とも思える問題行動の大きな原因の一つになっていることは間違いないと思うのです。野外で活動することを好む子供たちをどんどん増やしましょう。

プログラム

- 1. いち、にの、さんぼ (全員)
- 2. おじゃる丸 空をとぶ! (全員)
- 3. プーさん かけっこ (小高)
- 4. でかパン くるりん (中親)
- 5. それゆけ ハムちゃんズ (小低)
- ▲おべんとう▲
- 6. めざせ! グランドライン (中)
- 7. めくって そろえよう (小親)
- 8. 徒競走 (中)
- 9. ジャンケン びょん! (全員)



九月十二日に、岡崎市中央総合体育館で「第十九回子どもと親の集い運動会」が盛大に開催されました。どの子どもも楽しんで参加できるようにと、知恵を絞った競技や演技に、今年も大きな歓声が響き渡り、楽しい一日となりました。今年も新任の先生方が朝から、演技補助や介助などのお手伝いをしてくださいました。

子ども声
一位になれたよ

ぼくは、プーさんかけっこをがんばりました。一番になれるかなあと思いました。お母さんと「めくってそろえよう」をやりました。黄色のカードを見つけてました。黄色チームは、たくさんカードを見つけた、全部そろいました。一位になりました。「バンザイ。」を五回言いました。



新任教師の信頼の架け橋

「先生、楽しいね。」
普段かわりりの少ない開発学級の子供たちだが、運動会を通して次第に心を開いてくれた喜びが、今も忘れられない。時折見せる笑顔は、私の心をも癒してくれた。「どの子どもにも温かい教師の心を」という気持ちで、教師として、いつまでも決して忘れまいと思う。

おじゃる丸の玉入れや、プーさんかけっこ、トランプめくりの親子競技など、どれも楽しくできるよう工夫され、それを見たりきって頑張る子どもの姿を見て、とてもうれしく思いました。また、他のお母さん方とも話ができ、久しぶりに楽しい一日を過ごすことができました。本当にありがとうございました。

親の声
運動会に参加して

今年で四回目の参加となりましたが、毎年親子で楽しみにしています。おじゃる丸の玉入れや、プーさんかけっこ、トランプめくりの親子競技など、どれも楽しくできるよう工夫され、それを見たりきって頑張る子どもの姿を見て、とてもうれしく思いました。また、他のお母さん方とも話ができ、久しぶりに楽しい一日を過ごすことができました。本当にありがとうございました。



子ども声
はたを持ったよ

ぼくは、赤組の代表で、はたをもって行進しました。とてもきんちようしました。でも、玉入れで赤は負けてしまいました。がんばりました。赤組の先生たちがおうえんをしていました。ぼくもいっしょにおうえんしました。かけっこにも出ました。三位になりました。運動会はとてもおもしろくて、たのしい一日でした。

子ども声
たのしかったよ

わたしはたのしかったよ。ドキドキきんちようもしたよ。船のリーダーで一位をとったよ。おうえんもがんばったよ。先生はともいそがしそよかったよ。わたしもたくさん出て、ちよとつかれたよ。でもたのしかったよ。

子ども声
いっしょうけんめいやったよ

きのおう、わたしは、うんどうかいでした。おじゃる丸がきました。プーさんもいました。カードをもらいました。いっしょうけんめいやつて、おなががすきました。おべんとうをたべました。やきそばをたべました。ぜんぶたべました。一ばんにたべました。

教師の声
おじゃる丸も大喜び

「本当にこんな玉入れができるのだろうか?」と思いつながら案を作った。それが、あれよあれよという間におじゃる丸が完成してしまつた。先生方の熱意と知恵にはびつくりする。そして、それを楽しみむ子どもたちの笑顔、それを見つめる大人たちの優しいまなざし。そうか、これが見たかったのだと気がついた。学校の体育大会も楽しい。でもこの運動会にしかないものがたくさんあることを感じた一日だった。



「思いを育む子ども」

の育成

愛知教育大学附属養護学校副校長

市川誠行

附属養護学校を初めて訪れる方は、校舎内から聞こえてくる元気なよい明るい歌声や中庭を散歩している孔雀の姿に、きつとびっくりされることと思います。

本校の子どもたちは、歌をうたうのが大好きです。音楽の時間はもちろん、一日のいろいろな活動の場面で、子どもたちは力いっぱい歌をうたいます。本校が大事にしている様々な行事の中でも、全校の児童生徒が一緒になつて行う附養タイムや作業タイムの始まりにも、元気な歌声がいつも学校中に響きます。

今春、卵から三羽のヒナが孵り、附養動物園の孔雀は九羽になりました。中庭をいつも悠然と散歩しているのは、その中の雄の二羽です。附養動物園には孔雀の他に、うさぎ、にわとり、あひるがいま

す。動物も附養の子どもたちの大切な仲間です。

さて、本校には現在、小学部十七名、中学部十八名、高等部二十七名、計六十二名の児童生徒が在籍しています。子どもの発達に応じて、基礎的生活能力や態度を養うとともに、一人一人が可能性を十分に発揮して、社会的に自立できる力を育てることを目標に、日々の教育活動を展開しています。

本校が今、特に重点をおいていることは、①一人一人を大切に育てる指導、②子どもを育てる環境づくり、③うるおいのある学校づくり、そして、④学校と家庭との連携の重視、です。とりわけ、平成十年度からは、豊かに生きる子どもを育てるための環境づくりを力を入れてきました。この十月には、四年間の研究実践をまとめた図書『「思い」を育む子どもたち』

を出版することができました。常に笑顔で子どもたちを見守り、見つめている本校の教師集団の労作です。特殊教育部の先生をはじめ、多くの先生方に購入していただきました。この場をお借りして、お礼申し上げます。ありがとうございました。

岡崎ライオンズクラブ招待

社会見学



日本モンキーパークへ

十月十二日に岡崎ライオンズクラブ様のご招待で、百四十五名の小学生が日本モンキーパークへ行きました。

結団式では、矢作南小学校の三浦裕貴君が、お礼のことばを大きな声で立派に言いました。そして上地小学校の西尾初恵様に保護者代表として、謝意を述べていただきました。



大門小6年 鈴木雄馬

子供たちは、木登りしたりエサを食べたりするかわいらしい姿を、いつまでも見っていました。解散式では、羽根小学校の野田奈生さんが、楽しかった喜びのこぼれを感謝を込めて言いました。時のたつのを忘れるほど充実した一日でした。

招待映画鑑賞会

ツイエンターテイメントコーポレーション様のご厚意で、七月十六日から八月十日までの間、映画を楽しみました。参加したのは小中学生合わせて二百名以上です。

今年で十五回目となる今回は「デジモンテイマーズ」もくつと「おジャ魔女どれみ」も楽しみました。

肉マンⅡ世」のアニメ三本立てを鑑賞しました。

大きなスクリーンで見る映画は、家庭のテレビ画面よりも迫力があります。映画が始まると子供たちはスクリーンに映し出されたヒーローたちにはららどきどきしたり、歓声をあげたりと、映画を十分に楽しんでいました。

いもほり交流会

少年自然の家

十月二日〜五日の四日間、少年自然の家でいもほり交流会が行われました。各学校で都合のよい日を選んで、秋空の下、いもほり体験させていただきました。

自然の家の方たちが、くわで土を起こしてくださった後、子供たちが土の中からさつまいもをほり出すと、喜びや驚きの声があがります。夢中ではついでと、小ささまざまなさつまいもが収穫できました。他校の友達とオリエンテーリングをやったり、取れたさつまいもを使った汁を食べたり楽しく過ごす姿も見られました。



教育研究所

そよかせ相談室

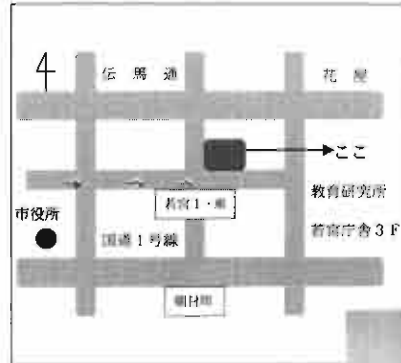
岡崎市就学指導委員会では、平成六年度より「そよかせ相談室」を開設し、相談活動を行ってきています。保護者の方々が、お子さんの就学について気軽に相談できる場として開設されました。

来年度就学予定のお子さんと保護者を対象とした相談会です。

「障害や病気があり、学校生活に不安や心配がある」「園や学校での様子で、気がかりなことがある」などの理由で悩んでいる保護者の方が、申し込んできてい

ます。

昨年度までは、六名会館内に専用相談室がありましたが、本年度の教育研究所の移転に伴い、「そよかせ相談室」も若宮庁舎（旧市民病院跡地）三階に移転しています。若宮庁舎には工



レベーターが備えられており車いす利用者など、肢体不自由の障害のある子たちにとっても、相談に来やすい環境になりました。

本年度は専

任の相談員が配置されたことで、月曜日から金曜日まで常時、相談が行える体制になりました。

また、在学児についても相談を受け付けています。

◆相談の申し込み先

教育研究所 そよかせ相談室

TEL 23-6993

そよかせ相談室から(1)

相談員 本多 末子

そよかせ相談室のご案内には、「お気軽にご相談を」とうたわられております。常時相談活動ができるよう、今年度から微力ながら相談のお手伝いをさせていただきます。たくさんになりました。

毎週水曜日は、専門の先生方を迎え、障害の軽重にかかわらず、お子さんの幸せな生涯を確保するために何が大切かが話し合われます。自立に向けての第一歩である就学については、ご両親の思いを十分に受けとめ、お子さんの実態に応じた適切な相談活動となるよう願っています。



特殊教育部四十周年記念誌

「かいほつのみち」

出版について

本年度は、岡崎に特殊教育部が設立されてちょうど四十年目にあたります。その歩みをまとめるため、昨年度の特級学級担当者に原稿を依頼し、特殊教育に対するそれぞれの思いを原稿にしてもらいました。

体的で多面的な内容になったのはと自負しております。また巻末の参考資料には、これまでの積み重ねがまとめてあります。記念誌は、まとめて終わりではありません。この本が特殊教育部の新たな原点になればと願っています。 記念誌編集委員会



学級スナック

おいしかったよ

生平小 かわせみ学級

きょうは、はじめての親子教室。マテバシイで『どんぐりクッキー』作りをしました。

二人の子供たちは、お母さんが来てくれたので大はりきり。力と根気のいる生地作りも、粉にしたどんぐりに、小麦粉、砂糖、バターをまぜて、「こね、こね、こね、こね」と、がんばりました。

今年度スタートしたかわせみ学級。お家の方の協力も得て、楽しい学級にしたいです。

